

「北陸新幹線 越前たけふ駅を盛り上げる案」

3-B 班

【コンセプト】今回は越前たけふ駅周辺の開発に重きをおいている。

越前市総合交通課の方と協力して、新幹線開通による新設駅「越前たけふ駅」を盛り上げるために、駅周辺を中心に設備や景観を考慮する。

・「交流促進の起点 南越駅周辺地域 丹南地域の人・自然・伝統・文化とのふれあいによる新たな出会い」
(福井県駅開発部 HP 参照)

上記のコンセプトから、「大自然を生かした、統一された景観を創造する」という独自のコンセプトを考案し、主にこれを中心に案を考えていった。

・商店街では食べ物に限らず、福井県の特産品を販売する。

以上のことから「ここにしかない」を達成し、目新しいもの、の印象で終わらせず、恒久的に栄える場所にしたい。

上記の飲食店、特産品に加え、アミューズメント施設を置くことで観光地としての特別感と学生や家族の遊び場としての安心感の2つの要素を演出することができる。一般的に、観光地に求めることとして景観の美しさと、食事の美味しさが二大巨頭として挙げられる。食事に関しては、福井に誇る特産品が数多存在するため心配の余地はないだろう。問題は景観である。したがって駅前商店街の景観として次のテーマで発展させていきたい。

テーマは{コウノトリのいる小京都}

古い町並み京都の人気は非常に高く、今後も上昇していくと考えられる。その古い町並みの模倣に、田畑や森林などの越前武生駅周辺の美しい自然を融合させることで外観を今までにない新たな景色とすることで多くの人から注目を集め、観光客の増加に繋げられる。しかし今挙げた景観案に対し、JR 武生駅前に似たような「古い町並み」を持つ蔵の辻という名所がある。近い場所に似たようなコンセプトの観光地があると互いの印象が薄れてしまうため、差別化を図りたい。以下はその差別案を記していく。第一に建築様式。蔵の辻は江戸、近代風の建築であるのに対し、新駅前には京都風の建築様式をとる。次に、蔵の辻は都市型の観光地であるのに対し、新駅前には自然融合型の観光地として運営していく。特に新駅前には夜の景観を重視していきたい。以上のような差別化をすることで、双方に観光客が入るようにしていきたい。

その他にも越前市総合交通課の皆様からの意見をふまえ、越前たけふ駅の裏山に足湯を作ること、村国山を活用したアスレチックの改良を提案した。この足湯のコンセプトは「福井県感あふれる足湯」だ。この足湯では「蕎麦湯の足湯」や「恐竜をモチーフにした足湯」、「水仙足湯」など福井県らしさを全面に出していきたい。またここで提供する食事でも福井の特産品をメインにしたいと思う。そうすることで、「ここにしかない」が

達成できるはずだ。ここでは地域の方たち向けというよりは新幹線を使って来る県外の観光客向けと考えている。

裏山に足湯を作るメリットとしては越前たけふ駅からとても近いから観光客が集まりやすい、また上から新幹線の出入りが見れるので電車好きの方たちが集まることも予想される。

村国山のアスレチックは常設されておらず「そうだ村国山へいこう」というイベント時にしか設営されていないのでこのアスレチックを常設し、子供から大人まで全員が楽しめるようにレベル分けをして規模を拡大することを考えている。村国山も越前たけふ駅から近いので新幹線を使って来る観光客の集客が見込まれる。

その他にもロープウェイやモノレールの設置を実現するために越前たけふ駅から環状線で各観光地に繋げ、その中で添乗員さんに福井の特産品などを売ってもらったりガイドをしてもらったりすることも考えている。そうすることで少しでも売上が出たり利用者も増え元が取れるのではないかと考えている。

ターゲット層としては外国人や家族連れ、若者から高齢者までと結局すべての幅広い層でこの方達全員が楽しめる場所にしていきたい。

【まとめ】

福井県の特産品を販売した商店街を設置することで観光客にニーズが生まれるように、また、「ここにいけば福井県のものがある」というイメージ付で「ここにしかない」を達成する。また、その景観を小京都をモチーフにすることで統一された景観を創造し、足湯や村国山を活用した娯楽施設ですべての人を対象に、駅の興隆を考えた。以上のことより、福井県 HP に示されたコンセプトを達成し、越前たけふ駅を地域の人にも観光客にも必要とされる設備にできたと考える。

【活動を通して学んだこと】

活動する前はどのような案にするか、ということにのみ焦点をあてて考えていたが、活動を通す中で、考慮した案による影響や効果、加えて他の案との協調性はあるのか、など案を決めた「後」について考えられるようになった。また、たくさんのお話し合いや、意見を聞いていく中で他の人が考えることと自分の考えの乖離や相容れなさを感じて、グループワークをすることの意味を強く感じるようになった。

今回の経験を活かし、他の人と意見を交換したり自分の案をプレゼンする際には「相手との考え方の違い」や「自分の案による副次的効果」を考慮したうえで活動していきたい。

丹南地区を全国に！

5 組 C 班

・テーマ理由

私たちの班は、越前たけふ駅の開通に伴い、どうすれば丹南地区の魅力を観光客 たちに伝えられるかを考えた。その結果「IC カード」を丹南地区仕様にするこ とで、新幹線や在来線を利用する観光客に、効率的に魅力を伝えることができると いう結論に至った。丹南地区には全国に、より発信されるべき魅力的な伝統工芸 品や名物がある。そこでこの IC カードを普及することで、丹南地区のポテンシャ ルを発信できると考えている。また、丹南地区全体の全容を俯瞰できるようにな ればジオラマなどの事業につなげる ことができると考える。

・提案

IC カード用のシール 丹南地区のジオラマ化

・アドバイスを受けて

私たちは、越前市役所の総合交通課の方から、中間発表の際に「IC カードのオリ ジナルデザインを作るのはコストの面でも難しく、またシーを貼った状態でも 現金チャージの際カードが正常な状態で機械を通るのかを確認した方がよい」と いうアドバイスをいただいた。それを受けて、私たちは JR 西日本様にメー ルを通して質問したところ、シールを IC カードに貼り付けることさえ不可能である、と いう解答をいた いただいた。そこで私たちは「福井県オリジナル IC カードスリーブ」 というテーマを軸に進むことに決定した。

・結果

	メリット	デメリット
オリジナル IC カード	全国初	高コスト
オリジナルステッカー (IC カードに貼る)	低コスト	IC カードに 直接貼ってはいけない
IC カード オリジナルスリーブ	低コスト	そもそもカバーがある

二次交通を広めよう

6-1 班

私達の班は、二次交通を用いて越前市の観光を活発化する方法について研究した。越前市に新幹線の駅が完成することにより、今後はより多くの観光客が丹南地区を訪れるということが予想される。そのため、丹南地区に新幹線で訪れる観光客に丹南地区の観光スポットに足を運んでいただくための方法として、私達は5つの観光プランを作成することにした。第一にインターネットを用いてプランを作成し、第二に各自で作成したプランをもとに野外調査を行い、得られた情報をもとに元のプランを修正し、プランを完成させた。これらのプランをどのように観光客に伝えていくかが今後の課題である。

1,はじめに

まずはじめに、なぜ、このような研究を行おうと思ったのかについて説明する。新しい新幹線の駅が開通するため、以前よりも観光客が多く来ることが見込まれる。よって、二次交通を利用してもらいながら、丹南地区に多くの観光客を呼び込みたいと思ったからだ。そして、その方々たちに、まだ知らない福井の魅力を発見してもらうことで、また福井に来てもらいたいと思ってもらえるように研究を行った。

2,研究方法

各自が考えたプランをもとに実際にそのプラン通り行った。実感のある研究にするため、そこでしかわからない景色や施設のつくり、周辺のお店などの気づきを得た。また、そのプランで問題があった場合はプランの練り直しを行い改善した上で、より実現に近づくプランの作成を目指した。

3,研究結果

作成したプラン一覧

○一人旅

越前たけふ駅

↓

ヨコザワ分店

↓徒歩

総社大神宮

↓徒歩&電車

福井総合植物園

↓徒歩&電車

めん房新月亭

↓徒歩

越前たけふ駅

○家族旅

越前たけふ駅

↓レンタカー

天池乃宿

↓

かずら橋

↓

武生駅

↓

越前たけふ駅

○女子旅

越前たけふ駅



武生駅

↓レンタカー

越前がにミュージアム

↓徒歩

お食事処うおいち

↓徒歩

越前温泉露天風呂漁火

↓レンタカー

越前陶芸館



武生駅



a.cafe



越前たけふ駅

○お年寄り旅

越前たけふ駅



たけふ菊人形

↓徒歩

越前めん処

↓電車

西山公園

↓徒歩

證誠寺

↓電車

越前たけふ駅

○カップル旅

越前たけふ駅



My name is...

↓レンタカー

陶芸館・古窯館

↓徒歩

だいこん舎

↓レンタカー

剣神社



朝日風月堂



越前たけふ駅

4,考察

私達の班の考察は、今回試作でしか作れなかったパンフレットの実用化ができて、地域の人や国民に浸透していたらきっとその場所に足を運ぶ人が増えると思います。私達の班が作ったプランは王道な場所とあまり普及していない場所を組み合わせたプランになっているのできっとみんなの心をつかめると思います。

5,今後の課題

私達の班は、それぞれが作ったプランを実際に行ってみました。その中で課題がいくつか見つかりました。1つ目は、移動時間が長く一日で回るのが大変であることです。改善策として、もう少し自分が作ったプランを省いて、その省いたプランで実際に行ってみることがあげられました。2つ目は、えちぜん武生駅から福鉄やJRの駅までの二次交通がわからないことです。企業の人から迎車でGOというえちぜん武生駅からタクシーで500円で越前市内のどこでもまわれるものを教えてもらったのですが、他に行く場所によっては電車や自転車など他の二次交通のほうが便利かもしれないのでそれも調べる必要があるなと思いました。

【新幹線開通による越前市の街開発】

7組 G 班

〈要旨〉

我々は北陸新幹線開通に伴い越前たけふ駅前の街の発展と開発について研究を行った。越前市の人口増加、経済発展、また、駅周辺の街づくりなどや交通機関について、様々な観点から、若者目線で越前市の未来について考えた。実際にレンタサイクルを借り、越前市の観光スポットを回って需要について考えたり、越前市民の方から隠れた観光名所などを教えてもらってそれらをもとに観光のプランを考えたりするなどを行い、越前市を県内、県外の両方の面から観光客の増加について計画、提案などを行った。

1 はじめに

越前市に新たに越前たけふ駅ができることを受け、私達は観光の面でより利便性の高い越前市にするために、観光についての提案を考えた。主には、二次交通のより活性化を図るために、バスやレンタルサイクリングなど様々な越前市内の周遊が可能である交通手段や、デマンドタクシーなどの新幹線開通後にできる交通手段のより良い交通面での活用法を考え、観光のできる越前市を目標に研究を行った。

2 研究方法

- ①校内でアンケートの実施(飲食店、交通手段について)
- ②観光地などを季節別、地域別にリストアップして、それらをもとにバスルート作成
- ③デマンドタクシーの車内などの飲食店の広告作り

3 研究結果

- ①飲食店や交通手段では、越前市民やそれ以外の自治体に住む福井県民の人からの回答結果をもとに、越前市内のおすすめの飲食店や隠れスポットなどをいくつかリストアップすることができ、特に③の広告などの需要について考える中で便利だった。
- ②バスのルート作成は越前市内の点在したスポットを回ることができ、越前たけふ駅からの二次交通の活用法を見出すことができた。
- ③デマンドタクシーの車内における広告は、越前市内の隠れスポットを利用客にアピールする方法として使うことができ、県内の利用客にも良い影響を与えることができるようになった。

4 考察

北陸新幹線開業によるメリットがかなり大きいものであると、ただ漠然と考えていたが、そこまで大きいものとは考えにくく、むしろ県民にとってはデメリットのほうが目立つことがわかった。在来線の本数減少や県民の他県への流出がその例と言えるだろう。その中で県や市はどのような対応を取っていくのが大事となる。それに沿った発案を今回させてもらったが、予算等を考えると、それほど大きな提案もできないのだ。大きな政策を練れないということは人に与えるインパクトも小さくなるので、北陸新幹線開業は結果的に失敗してしまうのではないかとというのが正直なところである。しかし、観光客向けの政策次第では、福井県の発展へつながる。福井のコンセプトを崩さない、自然を生かした政策を行うのが理想である。「田舎」の良さをできるだけ生かすことで福井の賑わいを起こせるのではないだろうか。

5 まとめ

越前市内での観光を発展させるための手段としては、越前たけふ駅からの二次交通をより活性化していくことが重要で、また交通手段内の広告などもより活性化していくことが重要だと考えた。越前市内の名所や観光地、伝統工芸品の店などは市内においても点在しているため、現在の交通手段では利便性が低く、観光客向けの交通手段が新幹線の県内開通に向け重要な手段とされている。そのため、それらを周遊できるような二次交通の手段、また、隠れスポットをアピールできる広告がより必要になると考えた。

6 参考文献

越前市総合政策部地域交通課

<https://www.city.echizen.lg.jp/office/030/015/index.html>

南越駅周辺整備構想(平成 15 年 4 月策定)

https://www.city.echizen.lg.jp/office/030/015/nanetsuekishuhenseibikoso_d/fil/nanetuekishuhenseibikoso.pdf

My 米ストロー作ってみた！ #2

7-H 班

1. はじめに

私たちは、先輩方が開発した My 米ストローの研究を受け継ぎ、さらなる改良と普及を求めて課題に取り組んだ。

2. 課題

先輩方から引き継いだ課題は3つで、福井県ならではの独自性をもったストローにすること、見た目が悪いこと、使用後にそのまま食べられるようにすることである。まず独自性については、米のストローというだけではインパクトが薄く、福井県にしか作れないストローにしたいと考えた。次に先輩方は、使ったストローを揚げる、焼くなどの調理をして食べる方法を提案していた。しかし、そこまで手間をかけてまでストローを食べたくならないのではないかと思ったため、使用後に食べられるストローを作りたいと考えた。

また、試作を重ねる中で見つかった課題もある。まず、レシピ通りの分量でもうまく作れなかったことだ。水分量が多くて固まらなかったり、反対に乾燥しすぎてしまったりしたので、レシピを改良することが課題だと考えた。また、ストローを使う機会がそもそも少ないのではないかと考えられた。

3. 材料と方法

(1) 材料(1本～2本)

米粉 小さじ7

水 小さじ4(ローヤルさわやか、梅ジュースの場合は小さじ3)

サラダ油

ストロー、マドラーなど、型となるもの

- ①米粉と水を粉感がなくなるまで混ぜる
- ②ストローにサラダ油を塗った後、①を巻きつける
- ③電子レンジの弱で、ひっくり返しながら30秒ずつ温める

(2) 方法

先輩方から引き継ぐ

アンケート調査(39件)

仁愛大学の教授 佐藤真実さんにお話を伺う

希望者(7人)に試食

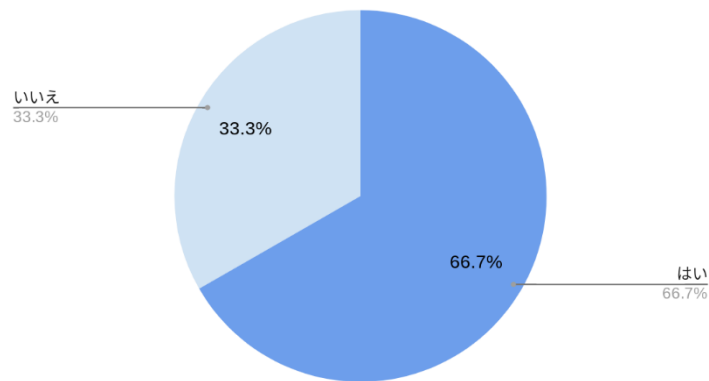
4. 結果

課題として挙げられた、福井県の独自性について、梅ジュースやローヤルさわかかなどの福井の特産品を入れることで、独自性が生まれたのではないかと考えた。

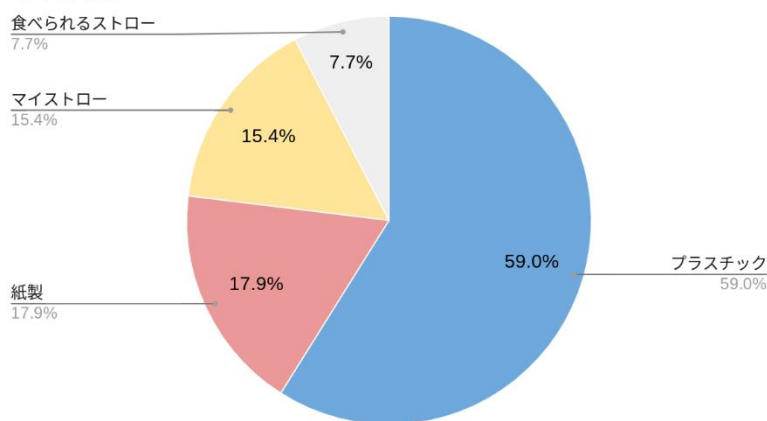
しかし、見た目に関しては手作りなのでどうしても分厚くなってしまう。また、ストローとして使ったあと、食べたいとは思わないと感じた。

アンケートの結果から、お米で作られたストローを使いたいという方は約6割ということがわかった。しかし、今後使用していきたいストローはプラスチック製が最も多く約6割だった。肝心の My 米ストローのような食べることができるストローを使用したいという方は1割もいなかった。

米で作られたストローを使いたいか



今後使用していきたいストロー



佐藤真実さんに、My 米ストローについての客観的なアドバイスや感想を伺った。今の状態の米粉のストローを進んで食べたいとは思わないといった感想の一方で、発想は面白いと言っていた。ストローをすべての人に普及するのは困難であるため、まず、何に特化したストローなのかという方向性や使ってもらう人をしぼったほうが良いということ。次に米粉を使うと価格が高くなるため、備蓄米など安い米を使ったほうが良いということ。

希望者に米粉のみのストローとさわやかを入れたストローを試食していただき、感想をもらった。良点として、液体がもれず、普通のストローと同様に力を入れずに吸うことができるなどストローとしての機能性は十分に果たしている、ストローが水分を吸った後はもちもちしていて、「餅」みたいでおいしいなどが挙げられた。改善点として、少しパサパサしている、ストローが大きいので全部食べようと思えない、さわやかを入れたストローは飲み物に味が移ったなどが挙げられた。

5. 考察

結果から考えられることは2つある。1つ目は、プラスチックストローを使いたいという人が多いこと。2つ目は、ストローとしてつかったあと食べたいと思わないことだ。

1つ目はアンケート結果から分かる通り、環境に良くないと言われているプラスチックストローを使い続けたい、紙はふやけて嫌だ、という声も多いと思われる。あまりいいイメージがない My 米ストローだが、環境にやさしく、米農家の支援につながるという点で他のストローに勝っていると思う。

最近プラスチックから紙のストローに変わった企業は、マクドナルドやスターバックスなどが挙げられる。だが、紙ストローはすぐにふにゃふにゃになってしまったり、吸いにくいという声を聞くことがある。そこで、紙ストローよりも耐久時間がはるかに長く柔らかくなりにくい、My マイストローを県内の店舗においてもらえば、sdgs のうち 12 つくる責任とつかう責任、14 海の豊かさを守ろうに繋がり、また福井県の PR にもなると考える。米を使った、使用後に食べられるストローに変わっていくには時間がかかると思うが、今後、プラスチックストローや、紙のストローではなく、マイマイストローが、全世界に普及されることを願っている。

越前たけふ駅を新たな憩いの場にするには何が必要なのか？

8組 A 班

要旨

北陸新幹線開通を機に、福井県民として地域活性を目指すためと学生の意見を取り入れてほしいという願いの元、この研究に携わろうと考えた。この願いを形にするため「越前武生駅を新たな憩いの場へ」というテーマのもとにアイデアを出し合い、情報を集めた。私達の研究を通して、福井県としてまたは越前市として活性化できるアイデアを考え出すことが出来た。具体的には、キャッシュレス決済導入、youtube,ローカル局による宣伝、イルミネーションの実施、季節ごとのイベント、一年を通してのイベントを考えた。私達はこの研究により福井県の魅力を更に深堀りし、県民らも意外と知らないような魅力も発見することができた。今後はこのアイデアを発展させていき、福井県らしさを全面に出して更に活性化を図りたいと考える。

1 はじめに

2024年春、福井県に待望の北陸新幹線の敦賀までの延線が完成する。この開業により福井県はより活性化されると考え、私達にもなにか出来ないかと考えこの研究を始めた。そして、その北陸新幹線と越前市をつなぐ架け橋となる越前たけふ駅を市民にも新幹線の利用者にも利用してもらえるような交流の場を目指した。

2 研究方法

ネットでの情報収集

実際に現地(越前たけふ駅)に行って調査

3 研究結果

— 通年で実施したいとこ —

- ・キャッシュレス決済の導入...利用額増加によりさらなる収益が見込まれる
- ・YOUTUBE、ローカル局による宣伝...地域を限定することで集客効果のアップ
- ・イルミネーションの実施...新たな風物詩となる
- ・バリアフリー
- ・利用者へのアンケート
- ・#キャンペーン
- ・フリースペース

ー 季節イベント ー

春(食べ物フェア、花見)

夏(噴水、お祭り)

秋(スポーツイベント、食べ物フェア)

冬(スケート場、イルミネーション)

4 考察

越前たけふ駅は駅から越前市街地までの交通手段の不足が課題として大きくあった。それを解決するには周辺のバス停の設置、レンタルサイクルやタクシーを充実させるのが最良の手段と考えた。また、福井県の最大の魅力といえる「自然」を最大限に魅せられるような季節ごとのイベントを考えた。そのイベントにより県民が地元の食べ物を楽しめるだけでなく、福井県をあまり知らない新幹線の利用者が福井県のおいしい食べ物を知るきっかけになると思う。また、積極的な宣伝で通年で集客、こまめな利用者アンケートによりお客さんへの対応強化を図れると考えた。

5 今後の課題

まだ駅が完成していないためこの計画を変更する必要も出てくる。

更に注目のあるイベント、集客効果の飲み込めるイベントの案などが更に必要。

実際にそれを実行するためには完成を待ち、そこからまた考える必要もある。

6 参考文献

経済産業省ホームページ

<https://www.meti.go.jp/press/2022/06/20220601002/20220601002.html>

イルミネーション

<https://store.hqjic.com/?mode=f48>

<https://store.hqjic.com/?mode=f48>

福井新聞 D 刊

<https://www.dbj.jp/upload/investigate/docs/63bf6c315bb28205f28dbed0154617a5.pdf>

ポスターで丹南地区を盛り上げよう

8組1班

要旨

私達は越前市役所総合交通課の方々の協力の下、「どうしたら地元に興味を持ってもらえるか」をテーマに研究を行った。そこで私達ははじめに地元の人も知らないような隠れた名所を調べ、ポスターにすることで興味を持ってもらおうと考えた。また、どのような交通手段を使ったら良いか、経費はどのくらいかかるのかなどをまとめ、実際に足を運んでもらいやすくするための工夫をした。市役所の方からも意見をいただき最終的に出来上がったポスターを越前たけふ駅に掲示させてもらおうと考えている。

1. はじめに

私達がこの研究をしようと思ったきっかけは、北陸新幹線開業に伴い新設される越前たけふ駅を中心とした新しい越前市のまちづくりに興味を持ったからである。これから新幹線を利用して県外から多くの観光客が来ることが予想されるが、逆に県外に行く人も増えるだろう。そこで地元の人に丹南地区の隠れた魅力を知ってもらい、地元の人から愛され住み続けたいと思える町とアピールすることを目標にこのテーマを設定した。

仮説としては、市内の隠れた名所やあまり知られていない穴場スポットなどをまとめたポスターを作って掲示することで、地元の人に改めて丹南地区の魅力を知ってもらうことができると考える。

2. 研究方法

- ・まず、丹南地区にどのような交通機関が通っているかを調べる。
- ・その後丹南地区の有名なスポットを調べる。
- ・それをポスターに紹介文とともにまとめる。
- ・市役所の方の意見をいただく。

3. 研究結果

結果としては丹南地区にはあまり電車やバスなどの公共交通機関が通っておらず、車やタクシーが主なので観光としての交通の便の問題点が挙げられた。さらに、西山公園や武生中央公園などの誰でも知っている有名なスポットは、情報化の進んだ今の時代ならばインターネットで調べれば簡単に見つかり、わざわざポスターにする必要がない。また、ポスターに掲載できる情報の量には限りがあり、具体的な統一性を見出さないと目を惹かれないという意見も越前市役所総合交通課の方から頂いた。そこで私達は観光客はもちろんだが、まずは地元の人々に目を惹いてもらうために丹南地区で暮らしている自分も知らないような観光地を特に写真映えのするスポットに絞り、再びポスターにした。

↓出来上がったポスター一案



↓市役所の方の意見を取り入れ修正したポスター一案



デザインをより見やすくタイトルが目立つように背景にグラデーションをかけ暗くし、また若い人にも興味を持ってもらうためハッシュタグなどを取り入れ細部までこだわりを持って仕上げた。写真は観光連盟や公式サイトからの流用である。

4. 研究結果

結果としては丹南地区にはあまり電車やバスなどの公共交通機関が通っておらず、車やタクシーが主なので観光としての交通の便の問題点が挙げられた。さらに、西山公園や武生中央公園などの誰でも知っている有名なスポットは、情報化の進んだ今の時代ならばインターネットで調べれば簡単に見つかり、わざわざポスターにする必要がない。また、ポスターに掲載できる情報の量には限りがあり、具体的な統一性を見出さないと目を惹かれないという意見も越前市役所総合交通課の方から頂いた。そこで私達は観光客はもちろんだが、まずは地元の人々に目を惹いてもらうために丹南地区で暮らしている自分たちにしか知らないようなお店や施設を調べ、再びポスターにした。

5. 考察

私達が研究を発表した際に、市役所の方にもう一度場所を調べてみるようアドバイスを頂いたのは、ポスターにおすすめの場所をまとめる際、誰でも思いつくような場所を取り上げてポスターを制作していたからだと言える。市役所の方に発表する前は、場所を検索するときに、ポスターを見てもらう上でターゲットにする人の層やポスターのコンセプトを絞っておらず、見た人にこの場所に来てほしいという思いだけでポスターを制作していたので、誰が、どんな目的で、どこをおすすめすると喜んでもらえるかを考えるべきだということを学べた。また、視野を広くすることによって、ポスターを掲示した場合の様々な結果が考えられることも今回の研究を通して学べた。そして、インターネットで調べるだけでなく、その場所を訪れて実際に自分の目で見てみると、よりおすすめするのに内容が深まったポスターができるということも知った。

6. 今後の課題

もし貼ることが決定した際には、載っている写真が観光連盟から引用したため自分たちで撮り直さなければいけない。撮ることになったら景観や桜や水仙が咲いてるなど撮影の時期を考える必要がある。

7. 参考文献

<https://www.jalan.net/jalan/doc/news/button/0959431602/>

<https://www.town-echizen.jp/>

https://tannan.myp1.net/article/spot_tannan

<https://www.ikyuu.com/kankou/arealist8957/>